

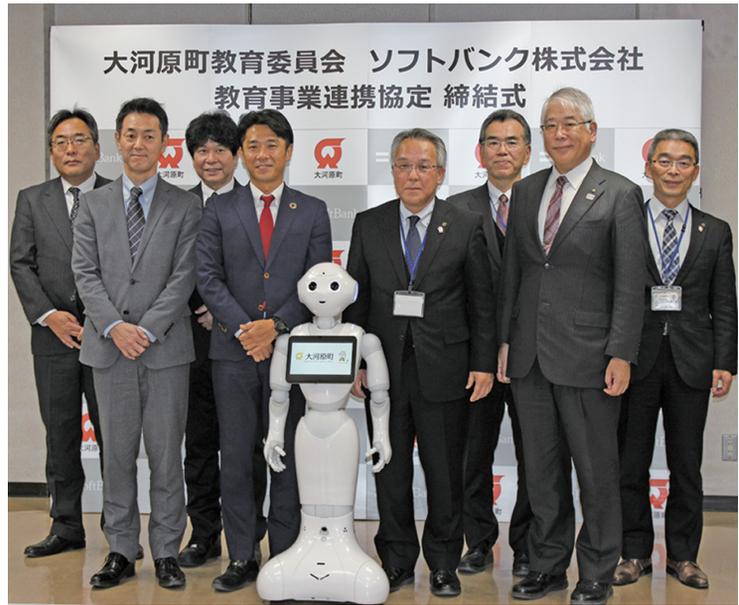
未来の社会で活躍するために

ソフトバンク㈱との教育事業連携に関する協定締結式

12月20日、町教育委員会とソフトバンク株式会社が教育事業連携に関する協定を締結しました。

協定式では、確認書への署名の後、大河原南小学校のビデオレター紹介や、大河原南小学校、大河原小学校の児童がプログラミングした人型ロボットの「Pepper」によるデモンストレーションなどが行われました。

今回の協定により、令和2年から必修化されるプログラミング教育への対応のほか、ICTの利活用、先端技術が活用できる人材の育成などの教育・学習環境が整います。最新テクノロジーに触れ発想力を育てていく子どもたちのこれからの活躍が期待されます。



学ぼう選挙の大切さ

大河原小学校 選挙出前講座

12月20日、大河原小学校6年生児童を対象に、選挙出前講座が行われました。

講座の前半では、選挙にかかる費用や、投票率など、選挙に関するクイズを交えながら、どうして選挙が必要なのかを楽しく学びました。後半は、本物の記載台と投票箱を使った模擬選挙が行われ、児童みんなで投票を体験しました。

講座の最後には、児童たちから若者の投票率を上げるアイデアが出るなど、この講座を通して選挙に対する興味を十分抱いてくれたようでした。



▲本物の投票箱を前に、少し緊張気味の児童たち。

新教育委員をご紹介します

大河原町教育委員会委員

こやま あきこ
小山 明子

令和元年12月25日、新たに教育委員に任命された小山明子さんの辞令交付がおこなわれました。

任期は4年間になります。



まちのわだい

安心して産み育てられる環境を

宮城県知事へ中核病院分娩中止等に関する要望書提出

みやぎ県南中核病院は、仙南医療圏で分娩ができる唯一の公立病院として地域周産期母子医療センターの役割を担ってきましたが、令和2年10月から医師不足により分娩受け入れが困難な状況となりました。

これを受け、12月24日、仙南2市7町とみやぎ県南中核病院企業団は、「分娩中止の回避」と「周産期医療の安定的な提供体制の確立に対する支援」を求める『みやぎ県南中核病院における分娩中止等に関する要望書』を宮城県知事に提出しました。

宮城県知事からは、「危機的な状況であると認識している。宮城県の地域医療計画にも地域で安心して子を産み、育てやすい環境づくりを掲げており、大きな影響が出るのではと危惧している。しっかりと考えて対応していきたい」とのコメントがありました。

今後、みやぎ県南中核病院では、引き続き分娩受け入れ再開に努めていきますが、当面の間は妊婦健診のみを行い、分娩は仙台市や岩沼市の病院と連携していくセミオープン方式を採ります。



▲村井知事へ要望書を提出する齋町長とみやぎ県南中核病院の下瀬川企業長

町の発展を願って

大河原町新春賀詞交歓会

新年を迎え、町の発展に向け意見を交換する「新春賀詞交歓会」が、1月7日に開催され、今年も町内の企業や行政区長、各種団体の代表など約200人が出席しました。

町長のあいさつでは、「頻発、激甚化する自然災害に対する防災・減災を進め、命を守る使命を果たしながら、子（ねずみ）年にふさわしく、ねずみのごとく真面目に機敏に対応し、本年が希望に満ちた1年になるよう全力投球してまいります。」と決意が述べられました。



お正月のお話と遊びを満喫

駅前図書館「お正月の遊びとお話の会」

1月12日、オーガ2階イベントホールを会場に、「お正月の遊びとお話の会」が開催されました。

始めは、読み聞かせボランティアさんによる絵本の読み聞かせや手遊び、暗唱ごっこが行われ、会場に来ていたお子さんが寿限無の暗唱を立派に披露してくれる場面もありました。

その後は福笑いやすごろくなどの昔ながらのお正月遊びの道具が用意され、子どもたちは正月遊びボランティアさんや、お父さんお母さんに遊び方を教えてもらいながら、楽しい時間を過ごしました。



▲暗唱ごっこでは来場者も大きな声で参加してくれました。